

令和5年度（2023年度）第4回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年（2024年）3月12日（木）15時30分～17時
- 2 場 所 501会議室
- 3 出席者 山本 隆明、吉原 雅哉、榊原 弘之、近藤 高史、早川 権慈、毛利 まり子、南川 陸夫、寺島 賀子、武富 時満、田中 治幸、森岡 良枝、吉鶴 弥生、加古 博之、龍田 昭一、千頭 聡アドバイザー（委員14名、アドバイザー1名、敬称略）
環境経済部次長兼生活環境課長、清掃センター課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課統括主任、生活環境課主任、生活環境課主事、清掃センター主事（事務局7名）
- 4 欠席者 牲川 順一（1名）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) あいさつ

山本委員長よりあいさつをした。

(2) 報告事項

前回会議の議事録について、事務局より資料を用いて報告をおこなった。委員からの意見等はなし。

(3) 協議事項

ア 第2次環境基本計画の計画期間の振り返りについて

事務局より資料を用いて説明を行った。

（千頭アドバイザー）：協議内容の確認だが、例えば柱についてであれば今までの計画期間に議論した内容が何点かにまとめられていて、この評価の内容で良いか、追加や修正が必要かということによいか。

→（事務局）：その認識で良い。

部会に分かれて議論し、その内容について、全体会で各部会長より概要を報告した。

（ア）社会環境部会（寺島部会長）

a 環境の柱1

情報発信をアプリからLINEの活用に移行していくということだが、世の中にはスマートフォンを持っていない、LINEを使わないという人もいるため、

それらにどのように対応していくか考えないといけないという意見があった。

b 環境の柱2

降下ばいじんについて、数値は少なくなっているが改善しているという実感に繋がっていないと感じている。その中で、清掃に対する補助金などを考えてはどうかという意見があった。

(イ) 生活環境部会（吉原部会長）

a 環境の柱1

エコスクールについて、誰でも参加できるようにハードルを低くすることで、参加者の底上げになるのではないかと。また、主流となっている情報ツールを積極的に取り入れて情報発信を行なってはどうかという意見があった。

また、情報の発信方法について、開催結果を単なる考察ではなく興味をもたれるような結果の見せ方をしてはどうか。また、環境活動を推進する人を増やすための情報発信の取り組みをしてはどうかという意見があった。

b 環境の柱3

ゴミ箱の設置について、前回から意見を出しているが、可能であれば設置について市で議論してほしい。

市民に緑地に興味を持ってもらったり、水辺に目を向ける機会を設け、市民協働を推進していくと良いという意見があった。

(ウ) 廃棄物・リサイクル部会（榊原部会長）

a 環境の柱1

エコスクールについて、参加者の条件や開催時間によって参加が厳しいと感じるため、条件等を緩和してはどうか。緩和することで、生活様式の多様化にも対応できるのではないかと。

情報発信について、LINEの登録者を増やすために、登録した人に景品を渡してはどうかという意見があった。

人材育成について、企業と連携して企業を巻き込む形ですすめてはどうか。

b 環境の柱4

売却金額の公表について、金額は資産の価値で変動するため、資源ごみの回収量を指標化して公表してはどうかと意見があった。

事業系ごみの排出量の増加が見込まれると分析しているが、分類方法の変更前では減量となっているため、良くなっているのではないかと意見があった。

(エ) 事務局意見

各部会からいただいた意見の中を参考に、必要に応じて文章の表現を修正する。
また、取り組みに関する意見については、市で検討して整理していく。

(カ) 千頭アドバイザー意見

現在の計画書における環境ビジョンには、計画期間で目指す「ふるさとの姿」が書かれている。その目標を計画期間で達成できたかを評価する必要があるが、部会での議論がエコスクールの参加人数が増えたか等、各指標を評価する傾向にあると感じる。毎年の評価はそれでも良いが、計画期間の振り返りとしては、各指標ではなく、全体的な評価をしてほしい。

イ 次期計画におけるビジョン及び環境の柱の検討

事務局より資料を用いて説明を行った。

全体会で協議を始めたが、委員から、全体では意見が出にくいと提案があったため部会に分かれて議論し、その内容について、全体会で各部長より概要を報告した。

(ア) 社会環境部会（寺島部会長）

難しいと思うが、自然災害について内容に入れてはどうかと意見があった。

(イ) 生活環境部会（吉原部会長）

長年続いているビジョンは良いと思うので、東海市らしさが反映できるようなビジョンが良いという意見があった。

(ウ) 廃棄物・リサイクル部会（榊原部会長）

ひとづくりをベースにしてはどうかと意見があった。

(エ) 千頭アドバイザー意見

多くの東海市の人、例えば100人が1歩進める計画も大事にする必要があるが、10人が10歩進めるような内容も大事だと思う。計画は、東海市をどのような街にしたいということを記載していくものであり、それらを含めて次回以降検討していく必要がある。

(4) その他

事務局より今後の推進委員会のスケジュールについて説明を行った。